



学 会 通 信

第 103 号

2022 年 7 月 5 日発行

目次

国際学会 ICoME 開催のご案内【最終報】	2
第 29 回年次大会のご案内【第 2 報】	4
『教育メディア研究』特集号「DX に向けた教育メディアの利活用」募集と 書評図書、図書紹介図書の推薦募集のお知らせ	7
第 10 期 第 4 回理事会（臨時）議事録	8
学会費納入のお願い、入会者・退会者	8

国際学会 ICoME 開催のご案内【最終報】

研究委員会（国際研究会 ICoME 担当）

ICoME（International Conference for Media in Education）第20回目はハワイ大学にて開催いたします。ICoMEは、日本教育メディア学会（JAEMS）、韓国教育情報メディア学会（KAEIM）、中国教育工学会（CAET）、アメリカ TCC（Teaching, Colleges & Community）の連携によって、開催される国際学会です。

ICoME2022は、オンラインでの開催となりました。コンカレントセッションおよびラウンドテーブルセッションの申込みは6月20日に終了していますが、参加申し込みは7月15日まで可能です。オンラインのバーチャル空間における交流の機会も予定されており、ICTを活用した国際交流を体験するよい機会となります。ぜひ参加をご検討ください。

■日程：2022年8月3日（水）－4日（木）※米国ハワイ時間（GMT-10）

■場所：オンライン開催

■ウェブサイト：<https://2022.icome.education/>

■今後のスケジュール

2022年6月20日：コンカレント・ラウンドテーブル各セッションでの発表者の概要提出期限（済）

2022年6月25日：コンカレント・ラウンドテーブル各セッションでの発表採否の通知（済）

2022年7月8日：全ての発表セッションの原稿提出期日

2022年7月15日：参加申し込み締め切り

2022年7月20日：プログラムのご案内

2022年8月3－4日：ICoME2022（オンライン開催、時間は米国時間）

■プレゼンテーションの種類

(1) コンカレントセッション（一般口頭発表）

研究者および実践者による一般口頭発表です。概要を提出いただき、発表の採否が決定されます。概要が採択された場合、4－8ページの原稿提出を予定しています。なお、ご提出いただいた原稿の中から優れたものを、*the International Journal for Educational Media and Technology* 掲載のために推薦させていただきます。

(2) ラウンドテーブルセッション（学部生・大学院生向け研究発表）

1つセッションにテーマが類似する複数の発表者がアサインされ、カジュアルな雰囲気での発表、ディスカッションを行います。概要を提出していただき、発表の採否が決定されます。概要が採択された場合、2ページの原稿提出を予定しています。優秀な発表に対し、*Young Scholar Award* が授与されます。学部生、大学院生の英語発表や海外の研究コミュニティ参加への機会となりますので、積極的に参加を推奨ください。

■プログラム概要（暫定版）※カッコ外はハワイ時間，カッコ内は日本時間

<Day 1>

13:30 (08:30)	オンライン発表・参加のためのオリエンテーション
14:00 (09:00)	Day 1 の開会
14:10 (09:10)	キーノート
15:00 (10:00)	ラウンドテーブルセッション
17:00 (12:00)	昼食／夕食休憩
18:00 (13:00)	ラウンドテーブルセッション
21:00 (16:00)	オンライン交流会，Young Scholar Award 授賞式，Day 1 の閉会

<Day 2>

13:30 (08:30)	オンライン発表・参加のためのオリエンテーション
14:00 (09:00)	Day 2 の開会
14:10 (09:10)	キーノート
15:00 (10:00)	コンカレントセッション
17:00 (12:00)	昼食／夕食休憩
18:00 (13:00)	コンカレントセッション
21:00 (16:00)	オンライン交流会，連携学協会によるパネルプレゼンテーション， ICoME2023 のご案内，閉会式

※詳細なプログラムは，7月20日に ICoME2022 ウェブサイトにて公開予定です。

■参加費

<会員・非会員料金>

- ・会員料金（日本教育メディア学会，日本教育工学会の会員の方に適応される料金）
 - －教職員等：\$50
 - －学生（大学院生を含む）：\$10
- ・非会員料金（上記学会の会員以外の方に適応される料金）
 - －教職員等：\$70
 - －学生（大学院生を含む）：\$15

<支払い方法>

「Paypal」を通じたクレジットカード決済によってお支払いください。詳細は，ICoME2022 ウェブサイトよりご確認ください。

クレジットカード名と参加登録名が異なる場合など，クレジットカードでの決済が不可能な場合は，「10th_int_study@jaems.jp」までご連絡いただきますようお願いいたします。

第 29 回年次大会のご案内【第 2 報】

年次大会実行委員長 亀井美穂子（椋山女学園大学）

第 29 回日本教育メディア学会年次大会は、2022 年 11 月 26 日（土）、27 日（日）の 2 日間、椋山女学園大学で開催いたします。

日本教育メディア学会は、2020 年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大に影響を受けてきましたが、年次大会、研究会ともに、オンライン開催で欠かすことなく開催されてきました。この間、オンラインでの研究発表や議論も活発に行われ、またオンラインでの運営ノウハウもより洗練されてきたことと存じます。

以前にも増して教育メディアは、初等教育から高等教育、また企業、地域や家庭など、認知され、活用され、研究されるようになっていきます。このような中で本年次大会では、より広範な領域、場面における教育メディア研究の成果を共有し、議論を通して、豊かな学びと社会を築ける場を、皆様とともに創りたいと存じます。

7 月 10 日より、課題研究のプロポーザルの受付が始まります。大会実行委員会一同、現地開催に向け準備を進めております。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

1. 大会プログラム

1 日目 11 月 26 日（土）

午前：理事会

13:00－13:50 総会

14:00－14:50 大会企画

15:00－17:00 シンポジウム

17:30－19:30 懇親会

（大学付近で会場を貸し切り 5,000 円程度で開催予定。初秋には最終決定いたします）

2 日目 11 月 27 日（日）

09:30－11:30 一般研究発表(1)

11:30－12:30 昼食

12:30－14:30 課題研究

14:40－16:40 一般研究発表(2)

2. 大会までのスケジュール

7 月 10 日 課題研究プロポーザル受付開始（Web サイト及び学会員 ML で周知）

8 月 10 日 課題研究プロポーザル締切

9 月 10 日 課題研究結果通知・大会参加申込開始・一般研究発表申し込み開始（9 月 10 日一般申込開始を Web サイト及び学会員 ML で周知）

10月10日 課題研究・一般研究原稿提出期限、事前参加費振込期限（10月1日 Web サイト及び学会員 ML で周知）

3. 加費・参加申込について

参加申し込みは、大会専用サイトを準備します。追ってご連絡します。

参加費は、以下のとおりです。

会員 3,000 円(事前), 4,000 円(当日)

学生会員 1,000 円(事前), 2,000 円(当日)

非会員 4,000 円(事前), 5,000 円(当日) ※ただし、非会員の現職教員は無料

学生非会員 2,000 円(事前), 3,000 円(当日)

4. プログラム内容

<大会企画>

「インフォーマルラーニングにおける ICT 利活用」

地域と文化を繋ぐメディアとしての役割を担ってきた公的文化施設では、メディア環境が変わる中で、ICT をどのように捉え、いかに活用し、地域の学びを支援しているのか。公的文化施設の継続的な実践を通して、インフォーマルラーニングにおける学びとメディアの在り方について議論したい。

登壇予定：会田大也氏（山口情報芸術センター[YCAM]学芸普及課長）、山口好和（北海道教育大学）、宮下十有（椋山女学園大学）、他1名を予定

<シンポジウム>

「GIGA スクール構想における教育データの活用」

GIGA スクール構想でその活用が進む一人一台の情報端末。活用の情報共有から教育データの利活用にも発展している。そこで、情報教育に関連する企業により、これからの教育データの利活用について議論したい。

登壇予定：東京書籍㈱、コニカミノルタ㈱、他数社を予定

<課題研究>

1) 映像コンテンツを活用した SDGs 教育（コーディネータ：岸磨貴子・久保田賢一）

ウクライナ情勢をはじめ、グローバルな問題に関心が高まっている。社会の問題について関心をもったり、働きかけたりすることがますます重要になり、SDGs 教育への関心も高い。NHK for School などの映像コンテンツ、現地から発信される SNS などを通じた映像コンテンツは、社会のさまざまな問題を多角的に考えるきっかけとなりうる。そこで、映像コンテンツを活用してどのような SDGs 教育が実践できるのか、実践されているのか、課題は何かを議論したい。

2) 児童生徒1人1台の情報端末の活用とメディア・リテラシーの実践（コーディネータ：佐藤和紀・宇治橋祐之）

GIGA スクール構想に伴い、児童生徒1人1台の情報端末、高速インターネット、学習支援システムな

どが学校現場に整備された。学習者が「意図をもって構成されたメディア」に主体的にアクセスして学ぶ機会は増えると考えられる。また、得られた情報や自分の考えについてメディアを通じて表現・発信して学ぶ機会も増加すると考える。さらに、家庭に端末を持ち帰り利用することを機に、家庭でのメディア・リテラシー育成のあり方も検討していく必要がある。こうした状況において求められるメディア・リテラシーに関する教育と実践について議論したい。

3) GIGA スクール時代の情報活用能力（コーディネータ：小林祐紀・稲垣忠）

小学校・中学校そして高等学校においても1人1台端末及び高速大容量のネットワーク等が整備され、補正予算においては教師用端末の整備も進められることになった。そして学習指導要領は、各校種において、いよいよ全面実施となり、高等学校では情報Ⅰが始まる。学習指導要領が要請する学びの探究化やSTEAM化において、情報活用能力は今まで以上に重要な役割を担うことになるのは明確である。しかしながら学校現場を概観すると、ICT活用が未だ目的となっている現状が見受けられる。こうした状況において、情報活用能力に関する教育や実践の在り方について広く議論したい。

4) 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法への取り組み（コーディネータ：小柳和喜雄・山本朋弘）

これまでの教職科目「教育の方法及び技術」と関わって、新たに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の1単位以上の修得を求められたことについて、教員養成、教職課程を持つ大学では対応を求められた。この2022年4月より、皆さんはどのように対応されているのか、どのような内容や方法が工夫されているかについて、情報の共有と研究知見の集積を学会として取り扱い議論したい。

5. 後援

愛知県教育委員会

6. 大会実行委員会

大会実行委員長 亀井美穂子

委員 宮下十有（椋山女学園大学）

委員 堀祥子（名古屋女子大学）

7. 年次大会委員会

年次大会委員長 堀田博史（園田学園女子大学）

年次大会副委員長 小林祐紀（茨城大学）

委員 石井芳生（関西大学初等部）

委員 福田晃（金沢大学附属小）

委員 前田康裕（熊本市教育センター）

委員 山口好和（北海道教育大学）

委員 渡邊光浩（鹿児島女子短期大学）

『教育メディア研究』特集号「DXに向けた教育メディアの利活用」募集と 書評図書、図書紹介図書の推薦募集のお知らせ

編集委員会

(1) 『教育メディア研究』特集号「DXに向けた教育メディアの利活用」(Vol.29, No.2) 募集のご案内
(2023年2月末発刊予定)

【締切 2022年8月15日(月)】

昨今、初等中等教育や高等教育における教育方法は大きな変革を迎えようとしています。小中学校においては、GIGAスクール構想により、これまで導入されてきた電子黒板や実物投影機などに加え、子どもたちが一人一台のタブレットPCを活用して学ぶ時代になりました。大学などの高等教育においては、オンライン授業を用いた学びが広がりました。タブレットPCなどのデバイスを学習者が活用することにより、これまでの授業では存在しなかった新しい形の子どもたち一人一人の実態に即した学びや、子どもたちが対話し、課題を追究する学びが生じています。このような新たな形の学びは、タブレットPCなどの教育メディアを一人一人が持ち、それらを効果的に活用することによって起こる変革(DX)の到来になると思われまます。このような変化は教育現場に留まらず、社会活動のDXへと波及することでしょう。

これらのことから、DXによりこれまで以上に学習者一人一人が主となる学びがさらに加速されていくと予測されます。そこで、本特集号ではこれらの背景を鑑み、DXに関して初等中等教育・高等教育・社会教育の様々な分野で行われている教育活動の設計・実践・評価についての研究を募集します。

1. 授業におけるICT活用、オンライン教育、クラウド活用、アクティブ・ラーニングなどにおける教育メディアを利活用した研究
2. デジタル教科書・デジタル教材などの教育メディアを利活用した研究
3. プログラミング・データサイエンスなどの情報活用能力やメディア・リテラシーに関する指導において教育メディアを利活用した研究
4. 教員養成・教員研修及び社会での人材育成において教育メディアを利活用した研究

上記の例示にとらわれない新分野の研究や理論研究、実践研究、調査研究など様々なアプローチから、今後に活かせる成果を期待します。

また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。多く会員からの投稿をお待ちしております。

(2) 書評図書、図書紹介図書の推薦の募集

学会員にとって有益な情報となる書評図書、図書紹介図書の推薦がありましたら、ご連絡ください。学会事務局に献本を頂いた場合は、優先的に検討をしたいと思います。

(editor[アットマーク]jaems.jp)

第 10 期 第 4 回理事会（臨時）議事録

[日 時] 2022 年 6 月 16 日（木）－6 月 22 日（水）

[場 所] 電子メールによる会議

[出席者] 会長，副会長，理事 21 名（25 名中）

<審議事項>

(1) IJEMT 論文の修正相談に関する対応案について（編集委員会（国際））
編集委員会（国際）より，IJEMT 論文の修正相談に関する対応案について提案がなされ，審議の結果，承認された。

以上

学会費納入のお願い，入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2022 年度（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日）の年会費（正会員 7,000 円，学生会員 4,000 円）が未納の方は，会員システムからお手続きください。学会 HP の「会員マイページ」よりアクセスいただくことが可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも，会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は，下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座から ATM を使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，**振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」**にして下さい。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。

※ 学生会員は、会費納入に併せて年度ごとに学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。これらを確実にお届けするために、定期的に**会員マイページにログインの上、登録情報の確認**をよろしくお願いいたします。特に、**生年月日の登録**が初期設定のままの場合が多く見受けられますが、名誉会員等の表彰が正しく行えない場合がありますので、今一度ご確認ください。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

新入会員・正会員 (5名)・・・横溝 賢，中池 竜一，廣瀬 誠，富永 麻美，小野田 薫
退会者・購読会員 (1団体)・・・太田書店

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- (1) 正会員，学生会員，団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。
 - (2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。
-

会員総数 342名・15団体

名誉会員：1名*

正会員：298名

学生会員：43名

団体会員：6団体

購読会員：6団体

(2022年6月20日 現在)

*現在学会誌を郵送中の名誉会員のみの人数。名誉会員総数は現在確認中です。

日本教育メディア学会 事務局

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1
明星大学 教育学部 今野貴之 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 岩崎千晶 (関西大学)
副委員長 永田智子 (兵庫教育大学)
委員 井ノ上憲司 (大阪大学)
尾崎拓郎 (大阪教育大学)
高橋暁子 (千葉工業大学)
多田泰紘 (京都橘大学)